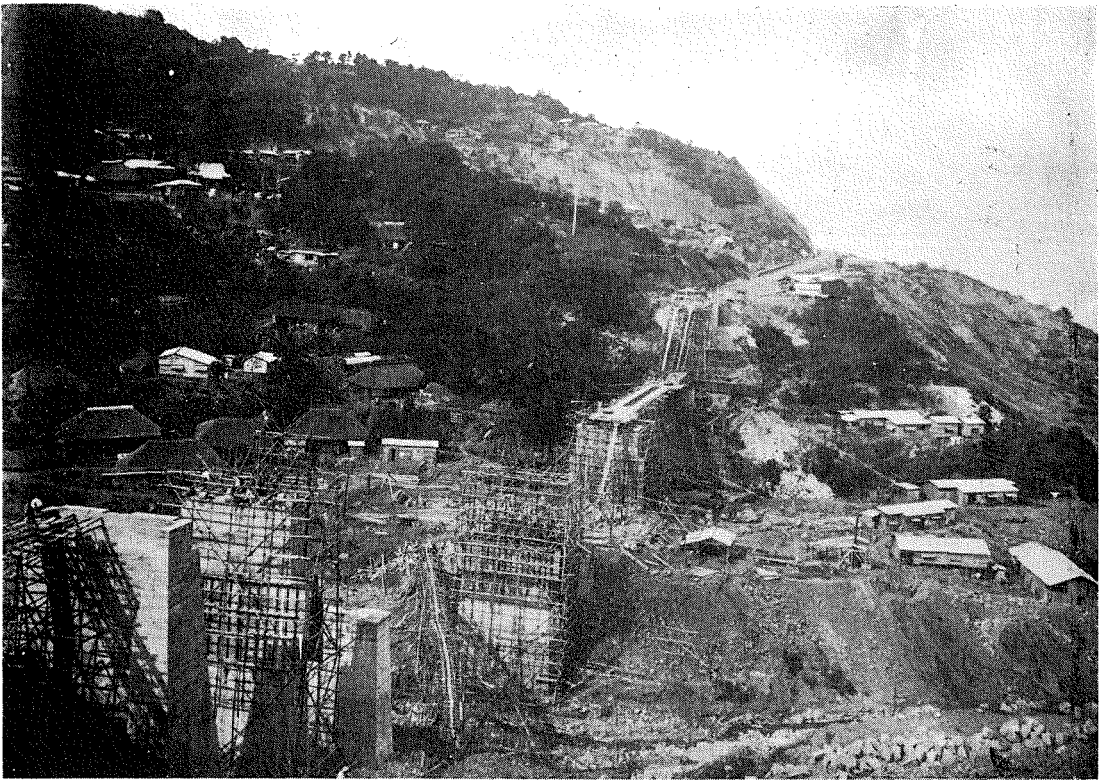


震災の白糸川橋梁

大正十二年九月一日のあの大地震を誰か忘れ得やうぞ。大地震ふの時、人は唯、難を逃れん事に努むる外、何の名利の念もなかつた。其災後の復活の力は今尚ほ人々の血に迸りつてゐるのである。當時あの炎天の下を復興第一の汗の努力によつて先づ第一に交通機關たる鐵道が開通した。此の尊い土木の實行を總ての世界の技術者と俱に爰に記憶を新にしたものである。以下暫らく此欄を續ける。鐵道省熱海線根府川眞鶴間に在る白糸川橋梁は、大正十二年九月一日の大地震により、約二哩の山奥より土砂岩石の大山津波襲來し、谷底より百尺の高さに在る橋梁を橋下の一部落と共に殆んど埋め盡した當時の慘狀である

Scene of Destruction of Shiraito Village and Bridge at the Time of the Great Earthquake of 1923, by Landslides Which Rushed Down the Valley from the Mountains. Piers 100' High were Completely Covered and Two Villages, Shiraito and Nebukawa, Totally Destroyed.



白糸川橋梁の再築

Reconstruction of Shiraito River and Village,
I.G.R. Atami Line at Nebukawa. Double
Track Bridge of Three 150ft. Deck Trusses
and Four 40 ft. Girders.

白糸川橋梁は徑間百五十呎上路鋼構桁三連、
四十呎鋼鈹桁四連、何れも複線式である。
圖は白糸川橋梁の災後の再築中の光景であ
る大正十四年三月竣功、此を以て震災全線復
舊す。